



苦しい時が上り坂

勝手に格言コーナー

古川 晶子



◆どんどん変わる福祉の制度

～いつ変わる？どう変わる？どう備える？

私たちの生活と密接なことですが、当事者になるまであまり関心を持たれない福祉の制度。実はその趣旨や内容は一定でなく、変更が繰り返されています。どんなタイミングで、どのように変わるのでしょうか？ 大岡華子さん（社会福祉士／埼玉県立大学助教）にお話を伺いました。



－制度が変わるタイミングというものはあるのですか？

おもに2つあります。ひとつは制度の見直し時期です。介護保険制度などは高齢化の実態に合わせるために3～5年に一度見直されます。もうひとつは新しい制度を作る時。つい最近では、経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある人を支援する生活困窮者自立支援法ができました。また地域独自の取り組みが国に認められ、制度化されることもあります。

－刻々と変わるのでね。

福祉の現場はそのたびに大変です。制度改正に合わせ、日々の業務に加え、イレギュラー対応や人材育成、書類業務などが増えています。それまでの情報では対応しきれないことがどんどん増えます。大学の授業では、福祉制度の変更だけで1コマを使っているくらいです。

－これから日本の福祉はどのような方向に進んでいくのでしょうか？

少子高齢社会における若者の貧困対策は大きな課題です。少子化で困ったときに頼れる家族が少なく、高齢化で介護の負担が大きいう現状があります。これにより孤立する若者には、複合的対応が必要です。

－やるべきことが多そうですね。

ところが、対応する福祉行政の体制に弱点があります。職員の正規雇用が減り、非常勤が多くなっています。そのため、非常勤なので重要な会議に参加できず職員間の情報共有がしづらい、任期が決まっているため継続的に取り組めない、などの問題が生じています。

そして、制度を利用する側も問題を抱えています。「わからない・聞けない・窓口に行けない」という悪循環や、福祉制度そのものに対する抵抗感です。

－私たちが福祉の制度を適切に利用できる力をつけるには、どうしたらいいのでしょうか？

まず、普段から自分で最新の情報を集めることです。インターネットなどよりも、地域包括支援センターなどの窓口で、自分の地域の情報が載っているパンフレットをもらうほうがいいでしょう。市町村などによって情報がだいぶ違います。

また、行政からの通知を見逃さないください。気付かないうちに介護保険料が上がっている、などということがあります。「見直し」という言葉が伝わっているときはどこが変わったのかしっかり確認しましょう。そして、いざというときはためらわず行政の窓口へ相談に行くことです。

福祉行政は本来、敷居の高いものではありません。保育園や児童館など、比較的身近なものも福祉のうちです。必要なときに必要なサービスを利用できるように、普段から知っておくことをおすすめします。（聞き手：細田恭子）



「究極の聞き上手」になりたい！

はたらくらぶインタビューでは、さいたまで自分らしい生き方や活動を実践している方に、活動に対する思いや今後の夢を語っていただいています。インタビューとして、はや 11 名の方からお話を伺いました。まだまだ慣れない私は、お話を引き出すというよりも、お話とともにたどる道りを、共に歩かせていただきながら記事にしているような感じです。

私のインタビュー技術はまだですが、すでに活動をしている方のお話には、しっかりと「柱」があって、お一人お一人の在り方に毎回感動を覚えます。「迷いながらも、突き進んでいくその強さやパワーはいったいどこから湧いてくるのだろう？」「困難に向き合った時にどうしてそんなにしなやかに対応できるのだろう？」そんなことを思いながらのインタビューの場は、私にとって毎日が刺激たっぷ

りな学びの場。多くの気づきと進むべき道を示していただいています。

黙っておとなしく聞くのではなく、根掘り葉掘り聞き出す「究極の聞き上手」を目指しつつ、これからもキャリアを積む素敵なたったの姿をお届けさせていただきます。

(森實摩利子)



「話す」ことで少しずつ「離す」～当事者が語る「流産」

妊娠の早い時期、22 週より前に妊娠が終わることを「流産」といいます。妊娠 12 週未満の流産が全体の約 80% を占めます。一般的には妊婦さん 12～13 人に対して 1 人は流産することになるそうです（日本産科婦人科学会より抜粋）。

悲しい体験は言葉にすることで昇華できるという一面がありますが、流産について話す場は少ないのが現状です。私が運営

する会は、辛い言葉を投げかけられた経験、自分自身を責める気持ちなどを「話す」ことで、少しでも気持ちを「放す」、辛さを「離す」ことにつながればという思いで続けている場です。経験を思い出してまた辛くなってしまったら・・・という怖さを抱える方も来てくださるので、その点には配慮しています。辛さの理由探し、原因探しではありません。人も自分も責めることなく、赤ちゃんと一緒に

過ごした日をゆっくり振り返る時間にしてほしいと願っています。

10 月のはたらくらぶWでは、私の活動をメインにお話させていただきます。2 度の流産体験、夫との関わりや成長した娘たちに伝えられること、会を続ける中で大切にしている思いなどを、私も「あの日」を思い出しながら「話す（放す・離す）」つもりです。（細田恭子）

SCE の講座・イベント

♥会場は WithYou さいたま（さいたま新都心）

♣会場はヘルシーカフェのら（さいたま市南区）

♥第 13 回はたらくらぶ W

当事者が語る「流産」

細田恭子（SCE 理事） / 10 月 12 日（金）10:00～12:00 / 1500 円 / 15 名

♥第 16 回はたらくらぶゼミ

こころの病気とのつきあい方

“リカバリー”を知ろう

大岡華子さん（社会福祉士 / 埼玉県立大学助教） / 10 月 21 日（金）10:00～12:00 / 1500 円 / 15 名

♥第 5 回 SCE サボサボ

SCE 理事 / 10 月 24（月）10:00～14:00（原則 1 人 1 時間）無料 ※SCE 会員限定

♥大人こころに寄り添う絵本時間③

森實摩利子（SCE 理事） / 10 月 29 日（土）15:00～17:00 / 1000 円 / 15 名
※WithYou さいたま公募型共催

♥第 10 回帝王切開ママの会W

細田恭子（SCE 理事） / 11 月 10 日（木）10:00～12:00 / 1000 円 / 3 名（子連れ OK）
※WithYou さいたま後援

♥第 14 回はたらくらぶ W

「グローバル教育」はじめての一步

世古口まりかさん（LO&PE365 代表） / 11 月 25 日（金）10:00～12:00 / 1500 円 / 15 名

♥第 6 回 SCE サボサボ

SCE 理事 / 11 月 28 日（月）10:00～14:00（原則 1 人 1 時間）
/ 無料 ※SCE 会員限定

♥アイロンビーズでつくるクリスマス小物

森實摩利子（SCE 理事） / 11 月 14 日（月）10:30～15:30 / 1 作品 300 円

WithYou さいたま「県民の日」親子イベント。アイロンビーズでクリスマスのオーナメントやカードを作りませんか？お待ちしております♪
※詳細は WEB でご覧ください。